製剤開発の進歩学ぶ

くすりコンソ 富山でシンポジウム



子どもなどの患者が飲みやすい薬について、意見交換したシンポジウム＝県民会館

県内の医薬品分野の産学官でつくる「『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造コンソーシアム」は18日、県民会館でシンポジウムを開いた。「創薬を患者へ届ける力～製剤が切り拓く未来～」をテーマに、効果が高く患者が使いやすい薬を作る製剤開発の進歩や課題について参加者が学び合った。

医薬品関連企業や大学などから、オンラインを含めて約200人が参加した。

東京薬科大名誉教授の岡田弘晃氏は、体内の標的組織へ的確に薬剤を届ける「DDS」（ドラッグ・デリバリー・システム）と呼ばれる技術の進歩を紹介。アステラス製薬製剤開発研究室の川端彩希氏は、小児患者らが飲みやすいよう、錠剤を小さくしたり、苦みを抑えたりしている事例を紹介した。

岡田氏らによるパネルディスカッションもあった。薬の有効性や安全性と、患者の使いやすさを両立する難しさなどについて、医療現場や研究機関といったそれぞれの視点から意見を交わした。

北日本新聞 2026 年 11 月 19 日付　利用許諾済み